

明治八年
大阪
錦馬
新聞
第九号

第三月十七日午
後八時頃大阪農
郡第三區曾根崎

村云くは、新巻まの情死
とて汚名の高き安五良へ、元薩
州藏のさの仲士にて、江戸堀北通
三丁目に住居せあるが、アト上福嶋
山崎咲藏の娘とげとへると劇

此區ハカ新中きる。川村よめとの方へ二人もい易く
行つたより、多きあり。未だ夫婦と約束に、いしり
身も重く、親も明て産子之間もあ、死せ

幸ひに、おの親多々咲藏へ、二人が中さひき分けが、その
うゝも男の、咲藏ハ大いに心痛。弟の直七にたのけき、
直七は、周旋して、二人は、いんへなれ、神知顔して安五良
おれお付て、話、直七、おの階は、たまたま、上之間、か、物首何
事、おの、下りて、目、燈、つけて、おの、窓の、間、を、二人とも、血ま、ま、
有難、ハ、何故、問、ま、も、其、後、息、た、下、と、七

正情堂誌



石和版

